

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1890600054
法人名	特定非営利活動法人 かっちゃんふあみりーぐるーぷ
事業所名	グループホームはなみずき
所在地	福井県勝山市立川町1丁目11-24 (電話) 0779-88-5600

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年2月25日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.1 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,560 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	6 名	男性	3 名	女性	3 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニック・デ・ふかや、竹下中央内科、たけとう病院、歯科医院シラサキ
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雄大な山々を望むこのグループホームは勝山市で初めて開設され、1階がデイサービスとなっています。開設時より地域に密着した取り組みとして、地域活動に積極的に参加し、近隣の方と交流に努めています。市職員とも一緒により良いサービスに向けて相談しながら取り組まれています。また、職員に看護師が4人配置され、日々の健康管理をはじめ、医療との連携も毎回医師に必ず照会書をもらうなど徹底されており、家族への安心にもつながっています。一人ひとりを大切にしたケアがなされており、元気になり自宅へ帰られた方もおられます。家庭的な雰囲気の中、犬との毎日の散歩やデイサービスとの交流を通して入居者は思いに過ごされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価です。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について全職員での実施する事の大切さを理解していますが今回は責任者中心に実施し、管理者によってまとめられています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族、区長、地域連合会副会長、町内会長、老人会長、民生委員、市職員、地域包括等が参加する会議では毎回テーマを決めて、ホームからの活動報告のほか、警察署の方を迎えてセイフティーマネジメントについてや、消防署による災害対策など地域との連携について活発に情報交換をしています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がホームに来られた際や電話にて日頃の様子や健康状態について伝えていきます。また、金銭管理については毎月領収書原本と一緒に出納について報告をしています。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内会たよりや地域の方より地域の行事や活動の情報を得て、入居者と一緒に祭りに参加したり、公園の草刈り、清掃などの奉仕活動を積極的に行っています。また、ゴミだし当番や散歩等を通して近所の方と挨拶や話をして交流しています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初にホーム独自の理念である「家族団らんの笑い声の出るホームを目指す・その人の人生を大事にする・常に人生の先輩として敬い、ケアに努める」という3つの理念を掲げている。	○	地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、理念に盛り込まれる事が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてはホーム内の目につくところに掲示しており、月1回実施している職員会議でも全員で唱和している。また、理念に添って月間目標を職員で話し合い決定し、朝礼で唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会たよりや地域の方より地域の行事や活動の情報を得て、入居者と一緒に祭りに参加したり、公園の掃除、土手の草刈り、清掃などの奉仕活動を積極的に行っている。また、ゴミ出し当番や散歩等を通して近所の方と挨拶や話をして交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初回の評価となっており、自己評価について全職員での実施する事の大切さを理解しているが今回は責任者中心に実施し、管理者によってまとめられている。	○	全職員で自己評価に取り組み、それを基に話し合い、職員の意識のすり合わせやケアの振り返りを通してサービスの質の向上を図る事が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、地域連合会副会長、町内会長、老人会長、民生委員、市職員、地域包括等が参加する会議では毎回テーマを決めて、ホームからの活動報告のほか、警察署の方を迎えてセーフティマネージメントについてや、消防署による災害対策など地域との連携について活発に情報交換をしている。		

グループホームはなみずき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	勝山市で最初のグループホームという事もあり、市担当者とは運営やサービスの課題について意見交換をして一緒に試行錯誤しながら共に取り組み、常に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて日頃の様子や健康状態について伝えている。また、金銭管理については毎月領収書原本と一緒に出納について報告をしている。	○	家族会開催時に写真を見てもらったりしているが、今後ホーム便りを作成し、定期的に日頃の様子や行事の報告、予定の案内、職員の紹介などを行う事が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際に面談の機会を持ち、意見を聞くように心掛けている。家族会や運営推進会議でも意見や要望を表せる機会としている。書類にはホーム、市、国保連の窓口を案内しており、第三者委員も設けている。	○	家族との信頼関係が構築されているが、遠慮される心情をおしはかり、さらに家族の思いを知るためにもアンケートの実施の検討が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員が何でも言いやすい雰囲気づくりを心掛けており、夜勤ではストレスを少なくする為に当直も配置し、体制を工夫している。また、新しい職員については他の職員でサポートしながら入居者への対応について支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で講師を招き認知症についての研修を実施したり、会議の際に勉強会を行っている。外部研修にも出来るだけ参加している。また、研修報告をしており、伝達研修については今後予定している。その他にも勉強会、事例検討会等を実施する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに相談して交流を図ったり、交換研修も検討している。また、外部研修への参加を通して交流を図っている。	○	管理者だけでなく、他の職員の交流も図り、交換研修などの取り組みについても期待される。

グループホームはなみずき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にお試し利用や、見学、デイサービスの利用、自主サービスの泊まりなどを通して雰囲気に馴染んでもらえるように努めている。また、入居開始時は家族とも密に連絡をとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方の能力を引き出すように心掛けてケアを行い、一緒に過ごし、支え合う関係を築くよう努めているが状況的に、ゆとりがない場合もある。	○	食事の献立作成や料理・盛り付け等を分担して行ったり、洗濯物たたみや・買い物等、できることに参加してもらい、一緒に過ごしながらか様々な場面で入居者から学べる機会を作る事が期待される。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、一人ひとりの思いを把握し、共有に努めている。また、利用者の思いを記録しておくノートを作り、それに基づいてお家に帰りたい人達の思いを叶えお家めぐりをするなどの支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの個別具体的な介護計画が立てられているが、職員カンファレンスが定期的実施が出来ておらず、気づきや意見の反映が不十分である。	○	本人、家族の思いや意見をはじめ、職員全員の意見が反映された介護計画を作成する事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者によるモニタリングが毎月行われており、入居者に変化があった場合はカンファレンスが行われているが、介護計画の見直しが不十分である。	○	今後、定期的なカンファレンスの実施を徹底していく予定であるが、職員間で本人、家族の思いを共有し、定期的なカンファレンス、モニタリングを行い、期間毎の見直しが期待される。

グループホームはなみずき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの状況に応じて買物や散髪、接骨院や以前住んでいた地域へドライブに行ったり個別外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、かかりつけ医を決めている。ホームの協力医療機関の医師はもちろん、他の病院の医師とも必ず照会書を記入してもらい、連携を図っている。またホームのかかりつけ医による2週間に1回の往診、緊急時の対応も可能な体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの看取り方針について説明し、同意を得ている。ターミナルケアについては家族、主治医、職員と十分に話し合いを重ねて対応していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切にしており、命令的・禁止的な言葉が出ないように、また大声を出したり、否定しないように心掛けている。また、個人情報については鍵の掛かるところで管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リズムを大切にしながら、それぞれのペースで過ごせるように支援している。		

グループホームはなみずき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみと考え、朝、夕はホームで作り、昼食は業者に頼んでいるが、品数も多く、お刺身も提供されており、献立については入居者の希望も反映出来る仕組みとなっている。職員は入居者と一緒に食事をして、出来る事の支援もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方に対して言葉掛けを工夫し、希望やタイミングに合わせて入浴が出来るように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の犬の散歩や、洗濯、散歩、野菜を作ったり、草取りをしたり出来るだけその方の生活歴や力を発揮してもらえる支援をしている。また、併設のデイサービスとの交流も楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど出来るだけ支援しているが、車椅子の方への支援が不十分である。	○	天気の良い日はホームのガレージを利用するなど検討している。今後、外出を通して、入居者、職員の気分転換やストレス発散も含め短時間でも戸外に出る機会づくりの検討が期待される。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階のデイサービスとの連携を行いながら、日中は鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署との協力での訓練を実施している。自動通報装置を設置し、通報訓練も随時実施する予定である。また、運営推進会議において地域へ協力を得る呼びかけも行っている。		

グループホームはなみずき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に合わせてとろみをつけたり刻んだりしながら支援している。食事摂取量、水分摂取量も記録し、カロリー計算された食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井は高く、木の梁がありぬくもりが感じられ、限られたスペースであるが、季節感を出すように装飾を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたテーブル、マッサージチェアや仏壇、タンスなど持ってきてもらい本人に合わせた居室づくりがなされている。		